

首都圏における日米同盟の実態

朝鮮半島や太平洋をにらむ一大拠点

世界の海軍で最強の艦隊であるアメリカ海軍第7艦隊が世界で唯一アメリカ本土以外での原子力空母の母港。旗艦ブルー・リッジも母港としている横須賀。米空軍の横田基地とともに首都圏における米軍を中核とした、朝鮮半島はもちろん、太平洋をにらむ拠点が首都圏にはある。

極東地域における

アメリカ軍の最重要拠

在日米軍司令部、在日米空軍司令部、第5空軍司令部、日米共同統合作戦調整センター。朝鮮戦争における国連軍の後方司令部も。2012年3月から「航空自衛隊横田基地」として運用を開始し。航空総隊司令部、航空戦術教導団司令部などを置く。

首都圏の米軍基地



世界最強第7艦隊の

母港横須賀

第7艦隊に所属する原子力航空母艦「ロナルド・レーガン」、揚陸指揮艦ブルー・リッジ、イージスシステムを搭載したミサイル巡洋艦及びミサイル駆逐艦（イージス艦）といった軍艦が事実上の母港としていた各艦艇のメンテナンス及び修理業務も行う。



4月米空軍のCV22オスプレイ5機飛来。夏以降正式に配備され、段階的に10機が配備される。



アメリカ海軍の揚陸指揮艦。艦隊の指揮を執るための専用艦。

安保法制（戦争法）成立後の日米同盟の深化



海自護衛艦 房総沖で合流へ

初の米艦防護へ出発



米イージス艦に洋上給油

日本海などで北朝鮮の弾道ミサイルの発射を警戒している米海軍のイージス艦に対し、海上自衛隊の補給艦が2017年5月以降、燃料を補給。安全保障関連法の施行を受け、「日米物品役務相互提供協定（ACSA）」が改定されて4月に発効し、可能になった新任務。



安保法制（戦争法）の整備で改定された自衛隊法95条の「武器等防護」に基づき、米軍などの艦船を武器を使用して防護。